

デニ・アヨン「ティンゲリーの世界が語る美」

MB&F の MAD ギャラリーは、写真家デニ・アヨンがとらえたジャン・ティンゲリーによるメタメカニカルの世界の展示会を開催する。

MAD ギャラリーはメカニカル・アート・デバイスを中心に展示しているが、それと同時に、あらゆるジャンルにおけるメカニカル・アートを称える場でもある。そのような理由から MB&F は、ジャン・ティンゲリーの手による名高い芸術的な機械作品を題材にしたデニ・アヨンの限定版プリントを展示できることを喜ばしく思っている。

ジャン・ティンゲリー（1925～1991）は「メタメカニクス」として知られるそのダダイズム風のキネティック・アートで知られるスイスの画家・彫刻家である。彼の作品には現代社会における物の過剰生産に対する風刺が込められている。

この展示会のために何をテーマに撮ろうかと考えた時、デニ・アヨンに迷いはなかった。「ジャン・ティンゲリーだ。」

「話題がメカニカル・アートのことになった時、ジャン・ティンゲリーの作品がすぐ頭に浮かびました。彼には日常的な物体を強い感情を呼び起こす非凡な機械に変身させる力があります。その作品は立体芸術から生み出される詩となって私の心を打つのです。」

デニがスイスのバーゼルにあるティンゲリー美術館の副館長アンドレ・パルデに連絡したところ、次の展示準備のために美術館が閉鎖される期間中は無制限に展示作品に近づいて良いとの許可が与えられた。

デニはハッセルブラッドのカメラを使って撮影することで、ティンゲリー作品の建築物的な側面を引き出そうと決めた。「それぞれの傑作の背景に光をさえぎる幕を作り作品全体が浮かびあがるようにしました。この遮られた光の幕が各作品のイメージ越しに見えることで立体作品の構造がシルエットとなって現れるのです。」

デニ・アヨンがジャン・ティンゲリー作品をとらえた 8 枚のシリーズは、それぞれ 5 枚限定でプリントされ、ジュネーブにある MB&F の MAD ギャラリーにおいて展示されている。

デニ・アヨン氏経歴

1967年ジュネーブに生まれたデニ・アヨンは、10代の始めには早くも写真と音楽の両方に情熱を抱いていた。12歳で初めてのカメラであるリコーリフレックスを手にとり撮影を始めた彼は、それからの数年間、地元のミュージシャンや彼らの楽器を撮って2つの興味を両立させた。

ロックが好きで、またジュネーブ音楽院でクラシック音楽を学んだにもかかわらずデニは写真家への道を歩んだ。彼はこう説明する。「音楽は個人的な表現を生み出しますが、そこには私が写真を撮る時に見出すような創造的な自由という要素がないことに気づいたのです。」

そして探検と発見を愛する心のままにデニはカメラを抱えてヨーロッパ全土、アメリカ、アジアを広く旅してきた。

プロたちと仕事をし、写真コースを受講し、セミナーに参加し、本で学び、完璧な画像を求めて何日も夜通し努力を重ね、そして何よりも生まれ持った天性の才能の力でデニは写真家への憧れを実現させ、技術を探求し磨いてきた。その過程で彼の関心の的はマクロ写真撮影、特にジュエリーと時計へと自然に進化していった。

「私は強い美的センスと芸術家の魔法のような技によって最高のレベルまで入念に作り上げられた被写体を撮るのが好きなのです。」